

突き抜ける「世界都市京都」をつくる

—— 政策集 ——

2023年12月27日

松井こうじ



# ■ 市民第一主義で人々から選ばれるまち京都

## ～ 子育て・教育環境の充実 ～

### <基本政策>

- 子どもと家庭の幸福を市政の柱に据え、府市協調で「子育て・教育環境日本一」を実現  
小中学校の給食無料化、子ども、保護者の視点に立った子育て環境の充実、多様な学びの保障、全国有数の教育レベルを更に高めるなど
- 空き家バンクの創設などにより、若者・子育て世代の流出を止め、定住できる仕事と居住空間をつくる
- 京都が誇る医療ネットワークを強化し、「健康長寿のまち・京都」をつくる  
政令市最高水準の子ども医療費支給制度を更に高め、負担の軽減を図る
- 「大学のまち」「学生のまち」の魅力を高め、働き住み続けられるまちづくりを推進する

### 主な施策

#### (1) 保育サービスの充実

- ① 保育料について、2人目以降の保育料無償化など更なる軽減策を検討します。
- ② 病児・病後児保育が安定的に運用できるよう制度を充実します。
- ③ サポート体制を強化し、障害のある園児の受入環境を充実します。
- ④ 国の子ども・子育て政策を活用し、老朽化した保育施設や設備の改修・更新を支援する新たな仕組みを構築します。
- ⑤ 保育園・幼稚園・認定こども園を柔軟に利用できるよう、「こども誰でも通園制度」を実施します。

#### (2) 子ども医療費助成制度の充実

- ⑥ 子ども医療費の無償化に向け、まずは、中学生まで1医療機関について1箇月200円を府市協調で実現します。国には、全国一律の制度を創設するよう求めます。

#### (3) 育児負担の軽減、親子の遊び場・交流の場の充実

- ⑦ コミュニティスクール（学校運営協議会）の活用などによって、児童館やこども食堂のような親子が安心して集える「第三の居場所」を充実します。
- ⑧ 希望されるすべての方が出産直後のショートステイやデイケアを利用できるよう、対象者の拡充など、産後ケア事業を充実します。
- ⑨ 公共施設や商業施設を活用して、乳幼児の遊び場を拡充します。
- ⑩ 地域・事業者との連携により、遊具の充実など、公園の魅力を向上させます。

#### (4) 学校給食の充実

- ⑪ 京都ならではの食文化をいかした献立の充実、きめ細かなアレルギー対応を行うことができる全員制中学校給食を可能な限り早期に開始できるように、着実に計画を推進します。
- ⑫ 小中学校の給食費の無償化に向けた総合的な検討を行うとともに、国に対し支援制度の創設を求めます。

#### (5) 教育費の負担軽減

- ⑬ 教育無償化について検討を進めるとともに、地方自治体の財政状況によって保護者の経済的負担に格差が生じないように、国に全国一律の制度の創設を働きかけます。

#### (6) 教育環境の整備

- ⑭ 小中学校の普通教室の空調更新や、学校体育館の空調設置などを、国の支援を得ながら計画的に進めます。

#### (7) 教育の質の向上のための体制充実、多様な学びの場の確保

- ⑮ 教員や支援スタッフの配置の充実、処遇の改善を行い、教員不足を解消します。
- ⑯ 教育データ活用など、デジタル教育の一層の充実に取り組みます。
- ⑰ いじめをしない・させない・許さない心を育むため、いじめ対策を強化します。
- ⑱ 空き教室を活用した自学自習できる環境整備、メタバースを活用した居場所づくりなどオンライン学習のプラットフォームの導入により、教室に入りにくい児童生徒や不登校児童生徒を支援します。
- ⑲ 医療的ケアが必要な児童生徒の学びを支援する体制を充実します。

#### (8) 若者・子育て世帯の市外流出防止

- ⑳ 空き家バンクの活用、中古住宅の取得・改修支援の創設などにより、子育て世帯の定住を促進します。
- ㉑ 公営住宅を民間でリノベーションして貸し出す「若者・子育て応援住宅」を増やします。
- ㉒ 府市協調で、就労・奨学金一体型支援事業の取組を強化します。

#### (9) 健康長寿のまちづくり

- ㉓ 社会的課題になっているAYA世代（思春期・若年成人）のがん患者の在宅療養を支援する制度を創設します。
- ㉔ 生涯を通じた健康づくりにつなげるため、虫歯や歯周病になりやすい妊娠期の歯科検診を助成します。

#### (10) 障害者施策の推進

- ㉕ 精神障害者の医療費助成制度の創設について、府市協調で実現します。

## ■ 突き抜ける魅力のある文化首都・京都

### <基本政策>

- 京都府や近隣自治体と積極的に連携し、芸術文化振興、快適な交通体系整備、就労・居住環境の整備など、「文化首都」にふさわしい「大京都圏」整備を促進する
- 文化首都・京都として、文化を基軸とした豊かさあらゆる課題を解決していく文化力を、京都のみならず、日本へ、世界へ、発揮していく  
国・文化庁と積極的に連携し、芸術文化、伝統技能、有形・無形文化財支援に注力し、その継承と研磨に努める
- 市民生活と調和が図られた持続可能な観光振興を行う
- 国際会議の誘致などの MICE を推進する
- 市民の足を守るため、国と連携した市バス・地下鉄の優待制度の創設など、市民生活に還元する
- 政治・経済の首都である「東京」と、歴史・文化の首都である「京都」の双方で、「都」としての機能を分担する「双京構想」を実現する

### 主な施策

#### (1) 文化首都・京都にふさわしい「大京都圏」創出

- ① 地域特性に応じた活性化プロジェクトを市内周辺部の他のエリアに拡大展開するとともに、新たな交通ネットワークの整備を図り、周辺自治体とも連携して京都全体の発展につなげ、広域的な都市圏「大京都圏」を創出します。
- ② 京の食文化を活かした、広域周遊に繋がる「食の京都」に府市協調で取り組みます。

#### (2) 音楽文化都市・京都の魅力向上

- ③ 令和7年度の京都コンサートホール30周年、ロームシアター10周年、令和8年度の京都市交響楽団70周年、令和9年度の円山公園音楽堂100周年の節目に、文化庁や民間との連携により国際的な音楽祭を開催するなど、音楽文化都市・京都の魅力をもっと高め、国内外に発信します。

#### (3) 文化庁と連携した持続的な文化財の保全・継承

- ④ 文化庁と連携して国立文化財修理センターの市内への早期設置を実現し、文化財修理の人材確保・育成、技術・知見の継承といった課題解決に先駆的に取り組み、京都モデルを全国に発信します。また、文化首都・京都にふさわしい博物館機能を整備します。

#### (4) 京都ならではの文化施設のユニークベニューとしての活用

- ⑤ 二条城等のユニークベニューを会場とした国際的なアートイベントの開催など、活用を促進し、文化首都・京都の魅力を国内外に発信します。

#### (5) 宿泊税の活用

- ⑥ 宿泊税を引き上げ、担い手確保・混雑対策・観光マナー徹底など観光課題解決に有効活用します。

#### (6) オーバーツーリズム対策

- ⑦ 市バス・市営地下鉄の市民優先価格について、国に対して法改正を求め、全国初のパイロットプロジェクトを国と連携して実現します。
- ⑧ 観光専用路線の復活を含め、市民の立場に立って市バス路線を見直し、生活路線の混雑緩和に取り組みます。
- ⑨ 市バス・地下鉄のキャッシュレス化を更に進めます。
- ⑩ 観光ハイシーズンの休日に、市民以外の方のマイカーでの市内乗入れを抑制・制限することを検討します。
- ⑪ 「大京都圏」の発想で、観光資源を発掘・発信し、時期・時間・場所の分散化を進めます。
- ⑫ 京都の玄関口・京都駅の施設改善と機能強化に国・事業者と連携して取り組み、混雑の緩和と新たな人の流れをつくります。
- ⑬ ごみのポイ捨て（不法投棄）に対する規制強化など様々な手法で、ルール順守を徹底します。また、事業者と共に観光地でのごみの発生抑制に取り組むとともに、民間協力によるスマートごみ箱の増設など、きめ細かい対策を実施します。

#### (7) 「市民の足」地域公共交通の維持・発展

- ⑭ 利用者の減少や担い手不足により厳しい状況にあるバス路線を維持するための支援制度を創設し、地域の市民の足を徹底的に守ります。
- ⑮ 運賃値上げを回避できた市営地下鉄と同様、国との連携により財源を確保し、市バスについても経営ビジョンに掲げられている運賃の値上げを回避します。
- ⑯ 地域・交通事業者・行政が連携し、高齢者など交通弱者を含むモビリティ・マネジメント（利用促進等）の取組を進めます。

# ■ 文化首都を支えるつよい経済の復活 京都を日本のシリコンバレーに

## <基本政策>

- 京都を支える伝統産業、地域企業を守り、その魅力をさらに飛躍させる
- 大学のまちの魅力をいかし、産業支援機関と連携し、スタートアップ支援、企業立地促進に努める
- 日本中・世界中の優れた芸術家、職人、起業・経営人材など、すぐれた才能を京都に招き、新たな産業を創造する
- 幹線道路整備など国直轄の交通網整備や国際会議場の整備、活用、公共交通網の再整備など、都市の成長を支える経済社会インフラ整備を国と連携して行う
- 市内の美しい景観を保全し、美しい京都の町並みはしっかりと守りつつ、一律の規制でなく、地域の特性に応じて都市機能の改善・向上と保全、開発の両立を図る

## 主な施策

### (1) 日本中、世界中の多彩な才能の移住・交流によるイノベーション、新産業の創出

- ① かつて本阿弥光悦が築いた芸術村を現代に蘇らせ、日本中、世界中の優れたカルチャープレナー（文化起業家）、芸術家、職人、経営人材などを京都に呼び込み、交流と協働を促し、社会課題の解決、イノベーション、新産業の創出を起こすクリエイティブな地域づくりを推進します。
- ② アートから始まる産業創出に向け、市立芸術大学とアートアンドテクノロジーヴィレッジ京都が連携して取り組みます。
- ③ 多拠点居住など多様な暮らし方を地域貢献につなげる複数住民票構想を研究し、国に提案します。

### (2) 都市計画の見直しと連動した企業立地支援の強化

- ④ 京都駅周辺など戦略的なエリア開発を進めます。都市計画の見直しと連動した企業立地支援制度の充実、首都圏企業や海外企業への戦略的なアプローチなどを強力に進め、安定した雇用、都市の持続的成長につなげます。

### (3) 大学発ベンチャー・スタートアップの創出の加速

- ⑤ 若者のアントレプレナーシップ（起業家精神）を醸成し、京都で起業する人材を育成するプログラムを展開するなど、大学発ベンチャーやスタートアップの創出を加速し、産学公金の連携により活動・交流、成長を支援します。
- ⑥ スタートアップビザ制度を活用し、留学生の京都での起業を、産学公連携・オール京都で支援します。

#### **(4) 学生の京都での就職・定着促進**

- ⑦ 京都で学ぶ学生に地域企業・中小企業の魅力を伝えるとともに、インターンシップを充実し、早い段階から留学生や学生と京都企業との交流の機会を拡大することで、市内就職の促進、地域経済を支える担い手の確保につなげます。

#### **(5) 地域企業・中小企業の経営基盤の強化、成長・発展支援**

- ⑧ 地域企業・中小企業の相談・支援体制を充実し経営基盤の強化につなげます。
- ⑨ DXやリスクリングによる地域企業・中小企業の新たな展開、成長・発展を支援します。
- ⑩ 産業支援機関の技術支援やコーディネート機能を強化します。
- ⑪ 地域企業・中小企業の IoT・ロボット技術を有する人材の育成などを支援します。
- ⑫ 市民の日常の暮らしやコミュニティを支える商店街の新たな魅力創出・発信を支援します。

#### **(6) 伝統産業の振興**

- ⑬ 分野を超越したコラボレーションにより伝統産業の新たな魅力を創造・発信し、未来を担う人を育てる仕組みをつくとともに、京都が誇るクリエイティブ産業として、国内のみならず海外への展開を支援します。

#### **(7) 道路整備の推進とインフラの長寿命化**

- ⑭ 交通渋滞の緩和、市民の安心・安全の確保、都市の持続的成長に向け、堀川通の機能強化、大津方面や亀岡方面を結ぶ広域的な道路ネットワークの構築を、国と連携して進めます。また、休止されている道路整備については、改めて精査のうえ再開します。
- ⑮ ドローン、AIなどの新技術を活用し、道路・橋りょうなどインフラの維持管理、長寿命化を、効率的・効果的に進めます。



# ■ すべての人に「居場所」と「出番」のある京都 ～ 市民がともに支える「新しい公共」～

## <基本政策>

- 京都が誇る学区単位の住民組織、ボランティア組織と行政が積極的に連携して、地域ぐるみで、一人暮らしや高齢の方々はもちろんのこと、全ての市民の安心な生活を支える
- 市民の積極的な理解と連携のもと、徹底した防災、減災対策を行うとともに、治安の確保に全力を傾け、市民の命と暮らしの安全安心を守る
- 誰も置き去りにしない福祉施策の実現に向け、重層的な支援体制を構築する

## 主な施策

### (1) 地域ぐるみで安心安全な暮らしを支える

- ① 消防団、PTAなど地域団体と共に、防災・防犯、子どもの見守り活動を充実強化します。
- ② 大学や企業と連携し、地域コミュニティの担い手の学び・交流の場「地域コミュニティカレッジ」を創設し、地域コミュニティの活性化に取り組みます。
- ③ アプリやSNSなどデジタルツールの自治会・町内会への導入・運用を支援し、地域活動への幅広い世代の参加と負担軽減につなげます。
- ④ デジタルスキルを習得した高齢者がアドバイザーとなり、地域の高齢者にスマホなどの活用法を教える、支え合いによるデジタルサポートを展開します。
- ⑤ ICTも活用し、認知症の高齢者が安心して暮らせる見守り体制を構築します。

### (2) 市民・事業者と共に命と暮らしを守る

- ⑥ 自主防災組織による地域防災力向上の取組を支援するとともに、地域の事業所における応急手当の普及啓発やAEDの設置を促進し、安心・安全のネットワークを強化します。
- ⑦ 救急や火災の通報の際、現場の状況を映像で迅速・的確に情報共有できる「映像通報システム」を導入し、救急隊・消防隊の対応力を強化します。
- ⑧ まちの匠の知恵を活かして京都型の耐震・防災リフォーム支援を再構築し、木造住宅や京町家の耐震化・防火改修を更に進めます。
- ⑨ 市内の周辺部における都市計画規制を再考し、良質で低廉な住宅の創出につなげます。
- ⑩ 防災教育や防災訓練に加え、マイタイムライン作成など、地域や家庭の防災力を高めます。
- ⑪ 多様な意見を伺い、避難所における安心で安全かつ快適な環境を整備します。

### (3) 複雑・複合化した課題を抱える方を支援する重層的支援体制の構築

- ⑫ 誰も置き去りにしない福祉施策の充実を図り、知的・身体・精神の障害、孤独・孤立、児童虐待、ヤングケアラーなどに包括的に対応するため、家族への支援も含め、地域ぐるみで重層的な支援体制を構築します。

## ■ 全国に先駆ける京都型共生社会モデルの形成

### <基本政策>

- 個性と能力が十分に発揮できる男女共同参画社会を実現する
- 京都議定書採択の地京都から二酸化炭素排出量ゼロに向け、循環型社会の構築と生物多様性の保全を三位一体で推進する
- 人と自然が共生する農林業を活性化する
- 安心、安価なくらしの「水」を守り続け、森林政策を充実し、水源を保全する
- すべての人が尊重し合う包摂性のあるまちづくりを進める
- する・観る・支えるスポーツを通して健康で豊かな市民生活を実現する
- ペットとともに暮らしやすいまち京都を推進する

### 主な施策

#### (1) 2050年二酸化炭素排出量ゼロに向け、脱炭素化、循環型社会の構築、生物多様性保全を三位一体で推進

- ① 文化遺産や商店街等への再エネ設備導入、建物のゼロエネルギー化（ZEH・ZEB）の促進、タクシーのEV転換など、京都の文化・暮らしの脱炭素化を進め、地域課題の解決、市民の暮らしの質の向上につなげます。
- ② フードロス対策の促進、資源物回収の拡大など、市民・事業者と共に更なるごみの減量・資源循環に取り組みます。また、ごみ出しが困難な高齢者等への支援を充実します。
- ③ 府市協働で設置された「きょうと生物多様性センター」が核となり、市民・地域・企業の活動の支援、連携・協力関係の構築により保全地域を拡大し、多様性の保全・回復、生物資源の持続可能な利用を図ります。

#### (2) 人と自然が共生する農林業や森林政策の推進

- ④ 新規就農の支援や担い手の確保・育成、新たな農業ビジネス創出に取り組みます。また、環境にやさしい肥料の使用など「グリーン農業」への転換を支援し、消費者に選ばれる地域ブランドを確立する京都モデルを創出します。
- ⑤ 中央卸売市場を核に、関係団体と連携し、安心安全な食材の安定的な流通を通じて市民の暮らしを支え、生産者を守りながら、京都の食文化を発信します。また、農作物に被害を与える野生鳥獣への対策を強化します。
- ⑥ 脱炭素や生物多様性の保全、景観保全、災害防止、「緑のダム」としての水源涵養など、森林の多面的機能を最大限に活かすため、市民や企業の参画による森林保全モデル活動やグリーンツーリズムを推進します。自然体験学習、文化体験学習を充実し、地域交流を通じて森林や文化芸術に親しむ感性豊かな子ども達を育みます。

- ⑦ 幅広い事業者と連携し、林業の担い手の確保・育成、ブランド化、木質バイオマスの活用を進めます。また、市内産木材の積極的な活用や建築物への木材利用の促進による京都型の「ウッド・チェンジ」を加速させ、林業の成長産業化につなげます。

### (3) する・みる・支えるスポーツの振興

- ⑧ 京都府内唯一の第一種公認陸上競技場を有する西京極総合運動公園から多様で身近なスポーツ施設まで、誰もがスポーツに親しむ環境の充実や民間スポーツ施設の公共的利用を、国の制度を活用して計画的に進めます。
- ⑨ 宝が池公園に整備されるアーバンスポーツパークを拠点に、マナーを守って安全にニュースポーツ・アーバンスポーツ（スケートボードなど）を楽しめる環境をつくります。また、スポーツ団体の活性化を支援し、市民スポーツの振興につなげます。
- ⑩ 学校・地域・大学・企業が連携し、中学校の休日運動部活動の地域移行を進め、生徒にとって望ましい持続可能な運動部活動の環境をつくります。

### (4) 多様性・包摂性のあるまちづくり

- ⑪ 生活困窮、性犯罪被害など困難な問題を抱える女性への総合的な支援や女性の活躍促進、性的少数者の方のパートナーシップ宣誓制度の都市間連携拡大など、誰もが生きやすい多様性・包摂性のあるまちづくりを進めます。

### (5) 人と動物の共生社会づくり

- ⑫ 府市協調で設置された動物愛護センターを核とし、動物愛護団体などと連携して、ペットの終生飼養の啓発、飼い主の体調不良時や災害時への備えの支援、住民理解の下での地域猫活動などに取り組み、殺処分ゼロをめざし、人と動物が共に暮らすことができるまちづくりを進めます。

## ■ 市・府・国の三者協調を更に前進

- 西脇京都府知事との府市協調を更に前進させ、周辺地域と連携したオール京都の活性化につとめる
- 国（中央省庁）と柔軟かつ戦略的に連携し、京都モデルの積極的な実現を図る
- 二元代表制のもと、行政と議会は車の両輪。対等なパートナーとして議会との協調を図る

### (1) 府市協調、広域連携、オール京都体制による京都全域の更なる発展

- ① 府市の更なる連携強化、府内の周辺自治体との広域的な連携、更には、地域・企業・大学などあらゆる主体の参画によるオール京都体制により、政策連携を図って一体感のあるまちづくりを進め、市民・府民サービスの向上、そして、京都全域の更なる発展につなげます。
- ② これまで積み重ねてきた府市協調を新たなステージに引き上げます。

### (2) 国との柔軟かつ戦略的な連携による京都モデルの実現

- ③ 京都の特性や大都市の課題を踏まえた的確な施策・十分な支援を国から獲得すると同時に、国と連携して全国のモデルとなる先進的な取組を京都から展開・発信します。

### (3) 議会との協調

- ④ 二元代表制の下、議会との信頼関係を構築し、対等な立場での議論・連携により政策を磨き上げ、推進します。

## ■ 住民参加で京都市のビジョンとミッションを再定義

- 京の町衆の伝統と心意気を活かし、幅広い行政分野について市民との対話を重んじ、市民参加型行政を推進する
- 町衆の公（おおやけ）への思いや心意気を活かし、共助、互助の精神を積極的に取り入れ、公助が有効に機能する住民参加型の京都ならではの行財政改革を推進する

### (1) 市民参加型の「京都基本構想 2050」の策定

- ① 市民会議の創設など市民が参加意識をもって京都市政に意見、提言を行う機会をつくります。就任後半年間に、市長自らが市政の内容、市役所職員の姿勢や意識、取組を集中的に点検し、その上で、市民や有識者の意見を聴取しつつ、市長が先頭に立って「京都基本構想 2050」を策定します。

### (2) 行政のデジタル化の推進

- ② 「誰一人取り残さない」デジタル化を念頭に、手続きのオンライン化や窓口のICT化などを徹底し、「行かない」「書かない」「待たない」窓口を実現することで「スマート自治体」を推進し、市民サービスの向上と行政の効率化を進めます。